



日本研修（データマネジメント演習）の様子（研修場所であるJICA中部にて）  
左から、レオさん、サンティアゴさん、オスカーさん、マルコスさん、樋口代表

## 【日本研修を開催しました】

東ティモールのパーツ大学公衆衛生学部との協働による草の根技術協力プロジェクトを2020年9月に開始後、新型コロナ感染症蔓延で長らく延期となっていた日本研修を、ついに2022年10月6日～17日に開催することができました。パーツ大学公衆衛生学部の教員3名とBiPH業務補助員の計4名（写真）が来名しました。

研修は「地域保健データを活用した保健実践のための教育力を向上する」ことを目的として、1) 地域保健データの重要性と有用性を理解する、2) 地域保健データのマネジメントと分析の実践を身につける、3) 地域保健データから見出したニーズを施策に適用する方法を検討する、4) 地域保健教育の実践方法を学ぶ、という4つの個別目標をおき、講義、演習、フィールド訪問を組み合わせたものとなりました。

研修は外部からお招きした講師4名に加え、当団体理事、事務局を総動員し、大学院生のアシスタント、ボランティアの協力も得て、非常に充実したものとなりました。月曜日から土曜日までびっしりつまった研修でしたが、日曜日には、名古屋城、トヨタ博物館、東山動物園、名古屋市科学館など、名古屋観光も堪能してもらいました。さらに、研修の最後にはオープンフォーラムをハイブリッドで開催し、研修員たちが日本のみなさんに向けて、東ティモールのこと、プロジェクトのことを発表しました。パーツ大学側のプロジェクト責任者である公衆衛生学部長らと今後のプロジェクトの方針を話し合う機会も設けました。（研修の様子は本号p3-4でご覧いただけます。）

研修員たちは、帰国後ただちに学部長に報告書を提出し、他学部の教員も含めた大学全体の教授会でも報告したとのこと。2023年1月13日と18日には、学生や他の教員への伝達講習も実施しました。プロジェクトも残り半年ですが、できることを着実に進めていきたいと思います。

## 【Helping Health Workers Learn日本語版完成！】

予定より大幅に時間がかかってしまいましたが、「Helping Health Workers Learn」の翻訳書「学ぶことは変わること：自分と地域の力を引き出すアイデアブック」が完成しました。内容ならびに購入方法についてはP5をご覧ください。

## 【キーワード：医療現場における「やさしい日本語」】

外国人住民の保健医療サービスや医療情報へのアクセスを阻害する要因として、言葉の壁が指摘されています。出入国管理庁の調査では、外国人住民の多くが医療機関受診時に「症状を上手く伝えられなかった」、「診断結果や治療法が分からなかった」といった言葉に関する困難を経験していることが分かっています。医療提供者の中にも、「外国人は日本語が通じない。英語で対応しなければならない。」という先入観から、診療に消極的になる者が少なくないようです。しかし、統計を見ると、日本で生活する外国人の出身国上位10カ国のうち、英語を公用語とする国は2カ国のみです。また、外国人住民の7割以上が日本語で日常生活を送れるという調査報告もあります。

そこで、医療現場における「やさしい日本語」の活用が注目されています。「やさしい日本語」とは日本語に不慣れな人も理解しやすい日本語のことです。やさしい語彙を用いたり、ルビをふったりするだけではなく、情報を整理し、1文を区切って短くしたり、擬音語・擬態語（ズキズキ、ビリビリなど）の使用を避けるなどの工夫をします。災害発生時の外国人への情報伝達手段として考え出された「やさしい日本語」は、今や行政情報や生活情報、毎日のニュース発信など、全国的に様々な分野で活用されています。

医療現場においては、日本語を母語としない患者とのコミュニケーション手段として、医療通訳の利用が推奨されてきました。しかし、人材確保の難しさや費用の問題等から、医療通訳を利用できる患者はごく一部です。医療通訳を利用できない場合の代替手段として、家族・友人等によるアドホック通訳が利用されてきましたが、正確性の問題に加え、患者のプライバシーの侵害や倫理的問題をはらむ可能性があり、医療現場での利用は推奨されていません。近年では機械翻訳の利用も進んでいますが、十分なリスク管理が必要と言われています。

医療現場における「やさしい日本語」の普及は、これらの問題へ対策の一つとなるのではないかとされています。日本語を母語としない患者へのコミュニケーション手段として、医療通訳と機械翻訳、「やさしい日本語」を併用し、目的や状況によって使い分けられることができるようになれば、患者とのコミュニケーションはより円滑になり、より質の高い医療ケアの提供に繋がるのではないのでしょうか。

出入国管理庁と文化庁は、多分野における「やさしい日本語」の活用を促進するため、「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」を作成し、「やさしい日本語」に変換する際のポイントについての解説や、「やさしい日本語」への書き換えツール等を紹介しています(※)。また、医療現場における「やさしい日本語」の導入・普及については、様々な団体が動画教材の作成やセミナーの開催を通して、情報発信を続けています。医療現場における「やさしい日本語」の普及が、誰もが安心して医療機関を受診し、医療情報を得ることができる「やさしい社会」の実現に繋がっていくことが期待されています。

BiPH インターン 新井純子

(名古屋市立大学看護学研究科 博士前期課程1年)

### 【参考】

※ 「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」：  
<https://www.moj.go.jp/isa/content/930006072.pdf>

#### 医療現場×「やさしい日本語」の取り組みの例

##### ◆医療×「やさしい日本語」研究会

医療者向けの動画教材や普及用の資料を掲載

医療×「やさしい日本語」研究会(easy-japanese.info)

##### ◆やさしいコミュニケーション協会

医療者に向けた「やさしい日本語」講座の開催

一般社団法人やさしいコミュニケーション協会 | やさしい日本語(医療) (yasacommu.or.jp)

##### ◆みんなの外国人ネットワーク ヘルスプロジェクト (MINNA)

コロナ陽性判明から療養解除までのフローチャートを多言語とやさしい日本語で作成。外国人住民だけでなく、保健所の職員にも活用されている。

みんなの外国人ネットワーク ヘルスプロジェクト (minna-health.com)



# 【UNPAZ-BiPH Project Japan Training】



講義&演習@JICA中部



JICA中部での修了式で

2022年10月6日から17日までパーツ大学  
公衆衛生学部から3人の教員を招いて愛  
知で研修を行いました。保健データに関  
する各種講義・データマネジメントや広  
報戦略演習・授業参加やフィールド見学  
など盛りだくさんの内容でした。ご協力  
いただいた皆様、ありがとうございました！

トレーニングの様子はYouTubeでも

[https://www.youtube.com/  
watch?v=BL-QCOiQXXI](https://www.youtube.com/watch?v=BL-QCOiQXXI)



学生とのディスカッション  
@名古屋市立大学





### 住民グループとの交流@設楽町



公衆衛生学部長に報告書を提出

研修ではJICA中部での講義だけでなく、名古屋市立大学の授業に参加したり、設楽町（愛知県）の住民主体の健康グループと交流する機会もありました。研修の合間には名古屋市内を観光して、ちょっとしたですが日本を堪能できたかも。

帰国後は報告会&学部教員への伝達講習などをこなしました。2023年1月の伝達講習ではBiPHも日本からオンラインでサポートしました。



### 観光@名古屋





## 【今後の勉強会予定】

| 回  | 日時                           | テーマ   | 担当               |
|----|------------------------------|---|------------------|
| 82 | 2023年1月27日(金)<br>18:30-20:00 | やさしいにほんごをつかってみよう                            | 樋口倫代(BiPH代表)     |
| 83 | 2023年3月24日(金)<br>18:30-20:00 | リハビリテーションの普及とデータベースの活用:<br>データを使ってできることを考える | 山口佳小里(国立保健医療科学院) |
| 84 | 2023年5月                      | パーツ大学における公衆衛生教育                             | パーツ大学公衆衛生学部教員    |
| 85 | 2023年7月                      | 調整中   |                  |

最新情報・お申込みはウェブサイトをご覧ください。

<https://biph.jp/study-meeting/>

参加費:BiPH会員500円/回(年会費と合わせてご請求します)

非会員1,000円/回(クレジットカード利用またはコンビニ払いの場合)、または500円/回(口座振込の場合)

\*新型コロナウイルス感染症対策により、当面はオンライン（Zoom）で開催します。  
状況によっては開催方法変更もありますので、どうぞご理解ください。

## 【年次総会を開催しました】

BiPH年次総会が2022年11月25日に開催され、2022年度(第9期)事業報告並びに決算と2023年度(第10期)事業計画並びに予算案が承認されました。第9期事業報告書と決算報告の詳細は当法人ウェブサイトをご覧ください。

### 【「新型コロナに対する公正な医療アクセスを全ての人に！連絡会」について】

既に“ウィズコロナ”の時代に入ったとも言われていますが、「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！連絡会」の活動は続いています。医薬品・医療技術への公平なアクセスは、今後も取り組み続けるべき課題です。BiPHも団体としてこの連絡会に参加しています。参加する個人・団体は現在も募集中とのことです。詳しくは以下をご覧ください。(ウェビナーの貴重な動画や資料も公開されています。)

「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！」連絡会

ご参加・ご協力の呼びかけ <https://ajf.gr.jp/covid-19/network-covid19/>

連絡会の各種資料はこちらから <https://ajf.gr.jp/covid-19/network-covid19/>



### 【編集後記】

コロナによる活動制限が緩和され、念願の日本研修をようやく実施することができました。大学での講演、国際リハビリテーション研究会への学会運営協力や、日本国際保健医療学会でのワークショップ開催など、BiPHの国内活動も充実した半年でした。ようやく世の中が動き出した感じですが、withコロナ時代に対応しつつ、今後も国内外で「みんなの健康」に資する活動をしていきたいと思えます。

### 【会員募集】

当会は活動にご賛同いただける皆様からの会費で成り立っています。ぜひ会員としてご支援ください。

会員の種別、払込先は以下の通りです。また、ご寄付も随時ありがたくお受けしております。

詳細は事務局までお問い合わせください。

個人正会員3,000円/年、個人賛助会員3,000円/年、法人会員30,000円/年

振込先:ゆうちょ銀行 00870-9-126227 シャ)ブリッジズインパブリックヘルス

会報「BiPHかわらばん」2023年7月号(通算11号)

発行:一般社団法人Bridges in Public Health

代表理事:樋口倫代

〒467-0027 名古屋市瑞穂区田辺通1丁目22番地2

TEL: 052-846-5878 E-mail: adm.office14@biph.jp

URL: <https://biph.jp/>

FB page: <https://www.facebook.com/biph.adm/>

メールアドレスと  
ウェブサイトURL  
が変わりました



**BiPH**  
Bridges in  
Public Health